

科目名：看護学概論	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 ( 3 0 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 三原 千か代	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>看護学概論は、保健医療福祉の包括システムの中で看護が果たす役割を理解させるための科目である。看護は人々の生活行動を通じて支援する。対象の個別性を保証し、科学的根拠を元に、対象者とともに看護を進めていかなければならない。そのために、必要な専門的知識、技術を学習する必要がある事をこの学習を通して理解する。</p> <p>看護学概論は入学してきた学生が始めて看護に触れる最初の授業である。そのため看護を概観でき、学生一人ひとりが看護への興味関心が持て看護について卒業するまで常に看護の概念や看護職者のあり方について自ら追及し続けられるような姿勢を養うことをねらいとしたい。</p> <p>看護の概念、「人間」・「健康」・「環境」・「看護」を捉え、看護の位置付けと役割の重要性について理解する。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護・健康とは、を理解する。</li> <li>2. 看護の対象について理解する。</li> <li>3. 総合保健医療福祉の中で看護が果たす役割を理解する。</li> <li>4. 看護提供の仕組みの変遷と展望について理解する。</li> <li>5. 看護職者のあり方について専門性や倫理性について模索し、専門職業人になることの意識を持つことができる。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門職として、人間関係を築くということ 求められる資質とは</li> <li>2. 看護の基本的理解 看護の定義とその変遷から看護を考える</li> <li>3. 4. // 理論を使って看護を考える</li> <li>看護は何をするものかーナイチンゲールとヘンダーソンから</li> <li>5. 健康の概念 (健康の持つ意味、健康に対する個人の責任・社会の責任) 健康の状態、健康の解釈の多様性</li> <li>6. 7. 看護の対象</li> <li>8. 9. 看護の機能と役割</li> <li>10. 11. 看護提供の仕組みの変遷と展望</li> <li>12. 看護提供の仕組みの変遷と展望</li> <li>13. 看護の専門性と倫理</li> <li>14. 看護の専門性とあり方を思考する</li> <li>15. 筆記試験・ポイント整理</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	<p>筆記試験・課題に対する取り組みを総合して評価する。</p> <p>筆記試験 60%・最終課題 (14 回目) レポート 15%・反転授業の取組み 25%</p>	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 e テキスト (指定副読本)</p> <p>F ナイチンゲール：看護覚え書、現代社</p> <p>ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会</p> <p>よくわかる看護者の倫理綱領、プチナス</p> <p>国民衛生の動向</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>看護理論集・日本看護協会編：看護白書、日本看護協会出版会</p> <p>※授業中に参考書を紹介及び資料の配布をする。</p>	
履修上の注意事項		



科目名：基礎看護学方法論Ⅰ (共通基本技術Ⅰ)	配当年次 1年	開講時期 1年前期
単位・時間： 1単位 ( 30時間)	授業の方法：講義	
担当者： 清水 さとみ	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>専門分野Ⅰである基礎看護学は、各看護学の基礎と位置づけられている。その中の基礎看護学方法論は、対象の状態によらない各看護学に共通する基本的な看護技術について学ぶ科目である。看護技術とは対象となる人々に対して安全・安楽に人間的で健康的な生活を送ることができるように援助することである。看護技術は、再現性・応用性が求められ人間関係を通して提供される。看護技術の概念では看護は対象の安全・安楽・自立を目指すものであり、看護の方法論である看護技術には、精神(心) 科学(頭) 技術(手) の3側面があること看護技術を習得するための3段階について理解を促したい。看護実践には看護技術習得は必須である。この授業で看護技術の習得の大事さを理解し、対象にあった援助が行えるよう、これから学ぶ看護技術の取り組みにつなげたい。看護技術教育では、感染防止の基本・コミュニケーション能力、ボディメカニクスを提供される看護技術のすべてに共通する能力として教授する。</p> <p>基礎看護学方法論Ⅰでは、まずは看護技術の概念について理解する。コミュニケーションの定義、基本的要素、ボディメカニクスの意義と原則、指導技術について学ぶ。学生は4月に入学したばかりである。基礎科目も並行して学ぶ。まずは専門用語を理解し語彙を増やし、自らが自己主張と他者尊重のスキルが修得できる機会として演習を設定し、身近な集団の中で人間関係形成をめざす。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の概念について理解する</li> <li>2. 感染防止の基本法について理解する。</li> <li>3. 他者と関わるための効果的なコミュニケーション技術について理解する。</li> <li>4. ボディメカニクスの意義を理解する。</li> <li>5. 対象に働きかけ、行動変容を促す教育・指導技術について理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の概念 看護における安全・安楽・自立の意義</li> <li>2. 看護技術の習得プロセス 技術習得に必要な態度</li> <li>3. ボディメカニクスの意義と原則</li> <li>4. 感染防止の基本 日常的な手洗い</li> <li>5. コミュニケーションの意義・基礎</li> <li>6. コミュニケーションの基本的要素 コミュニケーションの歴史 欧米との違い</li> <li>7. コミュニケーションの種類と概要</li> <li>8. 看護を行う上での効果的なコミュニケーション技法 体験を通じた自己・他者理解</li> <li>9. </li> <li>10. 技術習得におけるリフレクションの考え方・基本</li> <li>11. 12. 13. 14. 看護における教育・指導技術の意義・プロセス</li> <li>15. 試験・まとめ</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 70% 演習課題 30%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 eテキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>写真でわかる基礎看護技術 インターメディカ</p>	
履修上の注意事項		

科目名：基礎看護学方法論Ⅱ（クリティカルシンキングⅠ）	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位（15 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 丸山 南海	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>看護過程は、看護を具体的実践するための思考過程である。看護過程を学び、看護援助において有効に利用するためには看護過程の基盤となる考え方を理解しておく必要がある。ここでは問題解決過程およびクリティカルシンキングと看護過程の関係について学ぶ。看護過程の思考に看護診断の考え方を取り入れている。看護の視点はゴードンの機能的健康パターンを使用する。それは看護診断概念を臨床者の目から分類したものである。11 のパターンのなかでも生活に視点を当てている所はこの時間で押さえどのように人を見ていくのか意識させる。それを理解したうえで各方法論へ進む。今後、臨地実習を履修する上で、当校の対象把握の枠組みである「ゴードンの機能的健康パターン」の『栄養・代謝』『排泄』『活動・運動』『睡眠』との関連性を学んで欲しい。</p> <p>さらに、実施したこと、観察したことを的確に捉え、事実に基づいた内容を簡潔明瞭に記録・報告できる技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方について理解する。</li> <li>2. 記録・報告の意義、方法について理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の概要 問題解決型アプローチ看護過程の構成</li> <li>2. 問題解決過程、問題解決に必要な力</li> <li>3. クリティカルシンキング 倫理的判断と価値判断</li> <li>4. 看護過程と看護診断過程を学ぶ意義</li> <li>5. 看護における観察の意義と視点</li> <li>6. (ゴードンの機能的健康パターンに沿って)</li> <li>7. 記録・報告の意義、方法について</li> <li>8. 筆記試験 まとめ</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ニューヴェルヒロカワ 系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>江川隆子 かきくたき看護診断 日総研 NANDA－Ⅰ</p>	
履修上の注意事項		

科目名：基礎看護学方法論Ⅲ（基本技術Ⅰ）	配当年次 1年	開講時期 1年前期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 岡田 歩美	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>基礎看護学方法論Ⅲでは、看護実践のあらゆる場面において基盤となる共通技術を解剖生理学など人体の構造と機能にかかわる知識を科学的根拠として活用しながら学習する。具体的な内容として、ヘルスアセスメントの概念を理解し、対象を正しく捉えるための看護における観察の意義、基本的なフィジカルアセスメントについて学ぶ。</p> <p>フィジカルアセスメントとは、対象の基本的な身体状態、生活機能を観察・評価する方法の1つである。バイタルサインの観察・測定、フィジカルイグザミネーション技術、問診の方法を習得する。看護師・患者体験を通して、まずは正常の理解と、それを判断するための観察の視点を理解し、看護過程の最初のステップである情報収集やアセスメントの実際を学習する。</p> <p>当校の対象把握の枠組みである「ゴードンの機能的健康パターン」の『活動・運動』と関連づけ、日常生活への影響を考察できる思考力を養う。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントとその持つ意味について理解する。</li> <li>フィジカルアセスメントと観察の視点について理解する。</li> <li>フィジカルアセスメントに必要な技術としてバイタルサイン測定ができる。</li> <li>観察の種類、方法を理解し一般状態の観察ができる。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント</li> <li>全体の概観</li> <li>フィジカルアセスメントに必要な技術 全身状態の把握</li> <li>5. バイタルサインの観察とアセスメント バイタルサインとは 器具の取り扱い バイタルサイン測定の実際</li> <li>計測 計測の実際</li> <li>8. 9. フィジカルアセスメントについて 系統的フィジカルアセスメント</li> <li>10. 心理、社会状態のアセスメント</li> <li>11. 12. 13. バイタルサイン測定の方法と実際 一般状態の 生命徴候の観察 バイタルサイン測定の実施と評価・記録・報告について</li> <li>14. +対応時間 技術試験（バイタルサイン測定）</li> <li>15. 筆記試験および解説</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 50%・技術試験 50%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 eテキスト ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーヴェルヒロカワ</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>岡庭 豊 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ナーシンググラフィカ基礎看護技術③ メディカ出版 ナーシンググラフィカヘルスアセスメント メディカ出版 山口瑞穂子 看護技術講義・演習ノート サイオ出版</p>	
履修上の注意事項	自己学習時間を有効活用し、知識・技術の正確な習得ができるよう積極的に取り組んでください。	

科目名：基礎看護学方法論Ⅳ（日常生活援助技術Ⅰ）	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期・後期
単位・時間： 1 単位（ 30 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 阿佐美 夕姫	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>食事および排泄は人間が人間らしく生きていくうえで欠かすことのできない営みであり、生理的欲求であり、日常生活そのものである。</p> <p>健康が障害されている人にとって、食事は療養生活を続けていくための源であり、治療の一部でもある。排泄は誰もが他者の世話になることなく、自分でしたいと思うことの一つである。また、人は活動・運動することによって、日常の生活行動を生み出すことができる。疾病の回復・保持・増進及びニード充足に向けた生活行動を援助し、充足感や闘病意欲を高めるために重要である。しかし、機能障害や治療上の制約、行動意欲の低下などによって、食事・排泄や活動・運動を行うことが困難となる。したがって、食・排泄、活動・運動の援助は生理的な意味のみならず、心理的・社会的な意味にまで影響を及ぼす援助であることを学ぶ。また、そのような状況にある対象への安全・安楽・自立を考慮した看護技術について習得する。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての食の意義を理解する。</li> <li>2. 食事に関する要因を理解し、適切な食事援助技術を学ぶ。</li> <li>3. 人間にとっての排泄の意義を理解する。</li> <li>4. 排泄に関する要因を理解し、適切な排泄援助技術について学ぶ。</li> <li>5. 移動動作・体位変換の援助技術を学ぶ。</li> <li>6. 移送方法の意義を理解し、その援助技術を学ぶ。</li> <li>7. 活動と休息の必要性を理解し、適切な休息の援助技術について学ぶ。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事の意義、消化・吸収・代謝のメカニズム 摂食・嚥下の仕組みと障害のメカニズム</li> <li>2. 経口・経管・中心静脈栄養、高カロリー輸液</li> <li>3. 4. 食事介助と口腔ケア、義歯の着脱、胃管の挿入の演習</li> <li>5. 排泄のメカニズム 排泄援助（導尿）</li> <li>6. 排便障害の種類と排泄援助（床上排泄・トイレ誘導）排便を促す援助（浣腸・摘便）・ストーマケア オムツ交換と陰部洗浄</li> <li>7. 活動・運動の生理学的メカニズム 姿勢（体位）・動作に関する基礎知識と生理機能への影響</li> <li>8. 9. 活動・運動を支援するための援助 体位変換・車いすへの移動</li> <li>10. 睡眠・休息の意義、睡眠・休息の生理学的メカニズム 睡眠・休息を阻害する要因</li> <li>11. 12. 活動・運動を支援するための援助 体位変換 移動 移送</li> <li>13. 14. オムツ交換と陰部洗浄 演習</li> <li>15. 筆記試験/まとめ</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 90% 演習課題 10%	
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 e テキスト	
履修上の注意事項		

科目名：基礎看護学方法論Ⅴ（日常生活 援助技術Ⅱ）	配当年次 1 年	開講時期 1 年前後期
単位・時間： 1 単位（ 30 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 森田 真弓	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 人は環境から精神底・身体的・社会的な影響を受ける一方で、環境に適応しながら健康的な生活を営んでいる。入院による生活の変化を理解し、快適に過ごすことができるような病床の環境について理解し、病床環境を適切に整えるための援助技術、また、そのような状況にある対象への安全・安楽・自立を考慮した看護技術について学ぶ。</p> <p>清潔・衣生活援助の基礎知識として、身体を清潔に保つことの意義、皮膚の生理機能が最大限に発揮できるようにするために皮膚の構造と機能を学ぶ。皮膚、また衣服は外界からの刺激から身を守る役割がある。皮膚や衣服の清潔が保たれないと、外界に対する防衛機能が果たせない状態になる。さらに着衣は人間としての社会生活の秩序を維持する基本であり、自分らしさを表現する自己表現の手段でもある。</p> <p>患者体験を通し感じたことを学んだ知識につなげ、対象の状態や生活習慣を考慮して適切な清潔援助技術を選択し実施できる能力を身につける。他方法論など既習知識と関連づけて、活用、応用できる力も養う。</p>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と環境の関係 病院の環境と病床環境が対象に与える影響 病床に必要な条件 看護覚書 1・2・3・4・5・8 章からの指摘と現在の法的規制と看護の役割</li> <li>2. 3. 病床環境を整える援助技術 ベッドメイキングの方法</li> <li>4. 5. 病床環境を整える援助技術 臥床患者のリネン交換の方法</li> <li>6. 自己の生活から「日々の清潔を整えるADL」を想起し、動作面から今の一般通例や個別性を知る。</li> <li>7. 専門職者が対象の「清潔」を整えるために必要な知識と態度 (清潔の意義・皮膚の構造と生理・衣の役割・清潔のニーズのアセスメント・倫理姿勢)</li> <li>8. 健康状態に応じた清潔援助の方法選択の数々 死後の処置の意義</li> <li>9. 10. 清潔援助の実際（洗髪、足浴） 健康状態に応じた病衣の着脱の援助技術の方法</li> <li>11. 12. 13. 14. 臥床患者の寝衣交換の方法と実際 全身清拭の方法と実際</li> <li>15. 筆記試験及び解説</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 90% 演習課題 10%	
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 e テキスト 看護覚え書 現代社</p> <p>【参考文献】 山口瑞穂子 看護技術講義・演習ノート サイオ出版 岡庭 豊 看護技術がみえる メディックメディア</p>	
履修上の注意事	自己学習時間を有効活用し、知識・技術の正確な習得ができるよう積極的に取り組んでください。	

科目名：基礎看護学方法論Ⅵ（日常生活技術演習）	配当年次 1年	開講時期 1年後期
単位・時間： 1単位（30時間）	授業の方法：演習	
担当者：阿佐美 夕姫 ・ 清水 さとみ	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】人が生命を維持し、疾病の回復、健康維持のためには生活を整える必要がある。</p> <p>入院による生活の変化し、機能障害や治療上の制約、行動意欲の低下などによって、自ら環境の調整や活動・運動を行うことが困難となる。</p> <p>基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅴは看護実践に共通する基本技術や生活援助技術を学習した。健康障害に応じた看護を実践するためには、原理原則に基づいた看護技術を習得することが求められる。この科目は、学んだ日常生活援助技術の方法を想起し、繰り返し練習し振り返ることにより、行動の根拠や留意点が理解できる。既習の知識を活用し対象のニーズが充足されているか、さらに安全、安楽、正確に基づいた基本的看護技術の習得を目指す。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>バイタルサイン測定ができる。</li> <li>臥床患者に対し生活を整える援助が実践できる。 環境整備・リネン交換 口腔ケア 寝衣交換と全身清拭 オムツ交換と陰部洗浄 洗髪 足浴 体位変換 移動 移送</li> <li>各看護技術に応じたコミュニケーション、ボディメカニクスが活用できる。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. バイタルサイン測定の方法と実際 一般状態の 生命徴候の観察</li> <li>4. ベッドメイキングの方法 臥床患者のリネン交換の方法</li> <li>6 清潔援助の実際（洗髪、足浴） 口腔ケア オムツ交換と陰部洗浄 臥床患者の寝衣交換の方法と実際 全身清拭の方法と実際 バイタルサイン測定→洗髪、車椅子移動、 リネン交換 車いすへの移動移送 全身清拭と寝衣交換 足浴 車椅子移動</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 90%・レポート 10%	
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 eテキスト</p> <p>【参考文献】 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド 看護技術が見える①② メディックメディア 看護学大辞典 メヂカルフレンド社 山口瑞穂子 看護技術 講義・演習ノート サイオ出版 深井喜代子 Q&amp;Aでよくわかる！看護技術の根拠本 メヂカルフレンド社 川島みどり ビジュアル基礎看護技術ガイド 照林社 渡邊トシ子 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメントガイド ヌーヴェルヒロカワ</p>	
履修上の注意事項	実習室での講義では、指定された身支度が整わないと出席できない。	



科目名：基礎看護学方法論Ⅶ（クリティカルシンキングⅡ）	配当年次 1年	開講時期 1年後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 清水 さとみ	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>基礎看護学方法論Ⅶは看護を導き出す思考過程を学ぶ。看護過程とは看護を実践するものが独自の知識体系に基づき対象者の必要に的確に答えるために、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ解決していくために系統的、組織的に行う活動である。科学的思考とは、誰が見ても共通の看護問題が判断でき、その方法は複雑でないことである。基礎看護学実習Ⅰを終了直後でありその思考を混乱なく身につけることで、全ての看護実践の場で一貫して活用でき、看護の専門性を高めることにつながることを理解してほしい。</p> <p>看護過程の思考に看護診断の考え方を取り入れている。看護の視点はゴードンの機能的健康パターンを使用する。基礎看護学方法論Ⅱで看護過程を展開する際に基盤となる考え方について学び、看護の視点でどのように人を見ていくのか理解してきた。それを理解したうえで基礎実習と進む。方法論Ⅶは看護過程の進め方を中心として学ぶことをねらいとする。又看護診断は多くの理論を背景に成り立っている。その事理解と看護に活かせるよう主な理論を学ぶことをねらいとする。</p>	
授業の計画	<p>1. 2. 看護過程の概要 問題解決型アプローチ看護過程の構成 看護過程と看護診断看護過程を学ぶ意義 当校の看護過程の展開方法</p> <p>3. 4. 紙上患者の展開モデルを提示</p> <p>5. 6. 紙上患者の展開演習（観察 看護診断過程）</p> <p>7. 8. 9. 紙上患者の展開演習（計画立案 実施 評価）</p> <p>10. 看護実践に必要な理論の概要と看護のポイントがわかる 看護と看護理論 （セルフケア、ニード、ストレスコーピング、ボディイメージ、自己概念）</p> <p>11. 12. 13. 14. 紙上患者の展開演習（観察～計画立案）</p> <p>15. 筆記試験・まとめ</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 50%・事例展開 50%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ノーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 eテキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>江川隆子 かきくさ看護診断 日総研 NANDA-Ⅰ NANDA International NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 基礎看護学 基礎看護技術 メディカ出版</p>	
履修上の注意事項		

科目名：基礎看護学方法論Ⅷ（診療の補助技術）	配当年次 2年	開講時期 2年後期														
単位・時間： 1単位（30時間）	授業の方法：講義															
担当者： 林 美友起	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>															
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>感染防止の基本は、標準予防策（スタンダード-プリコーション）であり、その基本方針と具体策を学ぶ重要性を理解し、感染の成立条件や施設内で発生する院内感染を防止するための技術を学ぶ。</p> <p>検査・治療・処置に関する技術は、看護の対象に対して健康回復に欠かせない技術であり、検査・治療・処置はそれ自体が心身に苦痛を与える場合も少なくないため、安全・安楽・正確性を考慮した技術の提供が求められている。それぞれの基礎知識を学び、根拠を考えて実践する技術として習得することをねらう。</p> <p>与薬に関して重要なことは、医師の指示のもと、薬物療法を受ける対象にとって、より安全で適切かつ効果的に実施されることである。間違いがあると生命を脅かすことにつながることを認識し、与薬の技術に関する基礎的知識を学び、それぞれの基本的技術を習得する。</p> <p>苦痛の緩和・安楽確保の技術は、局所病変の治癒過程を促進したり、疼痛の緩和をはかる治療の側面と身体の安楽、精神的安定をはかる看護技術の側面を持っている。安楽促進に必要な基礎知識を理解し、それらの技術を学ぶ。</p> <p>上記の技術について、安全・安楽かつ正確な知識・技術の習得を目指す。</p>															
授業の計画	<p><b>【授業計画】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 感染防止の基礎知識 感染防止対策、具体策（个人防护具の着脱）</td> <td>9. 10 注射の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 滅菌法の基礎知識、滅菌物の取り扱い （鍋子を用いた綿球の受け渡し方／包帯法）</td> <td>11. 罨法の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>3. 4 検査における基礎知識、看護の役割</td> <td>12. 罨法の援助の実際（温罨法／冷罨法）</td> </tr> <tr> <td>5. 治療・処置における基礎知識、看護の役割</td> <td>13. 14 注射の援助の実際 （静脈内採血／静脈内注射）</td> </tr> <tr> <td>6. 治療・処置における援助の実際 （鑷子を用いた綿球の受け渡し方／包帯法）</td> <td>（筋肉内注射：上腕・臀部）</td> </tr> <tr> <td>7. 与薬の基礎知識、法的責任と看護の役割</td> <td>15. 筆記試験、まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 与薬の実際（与薬方法、薬剤の管理） 直腸内与薬・経皮、外用薬の基礎知識</td> <td></td> </tr> </table>		1. 感染防止の基礎知識 感染防止対策、具体策（个人防护具の着脱）	9. 10 注射の基礎知識	2. 滅菌法の基礎知識、滅菌物の取り扱い （鍋子を用いた綿球の受け渡し方／包帯法）	11. 罨法の基礎知識	3. 4 検査における基礎知識、看護の役割	12. 罨法の援助の実際（温罨法／冷罨法）	5. 治療・処置における基礎知識、看護の役割	13. 14 注射の援助の実際 （静脈内採血／静脈内注射）	6. 治療・処置における援助の実際 （鑷子を用いた綿球の受け渡し方／包帯法）	（筋肉内注射：上腕・臀部）	7. 与薬の基礎知識、法的責任と看護の役割	15. 筆記試験、まとめ	8. 与薬の実際（与薬方法、薬剤の管理） 直腸内与薬・経皮、外用薬の基礎知識	
1. 感染防止の基礎知識 感染防止対策、具体策（个人防护具の着脱）	9. 10 注射の基礎知識															
2. 滅菌法の基礎知識、滅菌物の取り扱い （鍋子を用いた綿球の受け渡し方／包帯法）	11. 罨法の基礎知識															
3. 4 検査における基礎知識、看護の役割	12. 罨法の援助の実際（温罨法／冷罨法）															
5. 治療・処置における基礎知識、看護の役割	13. 14 注射の援助の実際 （静脈内採血／静脈内注射）															
6. 治療・処置における援助の実際 （鑷子を用いた綿球の受け渡し方／包帯法）	（筋肉内注射：上腕・臀部）															
7. 与薬の基礎知識、法的責任と看護の役割	15. 筆記試験、まとめ															
8. 与薬の実際（与薬方法、薬剤の管理） 直腸内与薬・経皮、外用薬の基礎知識																
成績評価の方法・基準	筆記試 70%・手順書 30%															
テキスト	<p><b>【教科書】</b> 系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 eテキスト</p> <p><b>【参考文献】</b> 岡庭 豊：看護技術がみえる① メディックメディア 2015. 岡庭 豊：看護技術がみえる② メディックメディア 2015.</p>															
履修上の注意事項	<p>レポート課題は、提出時間を守ること。遅れた場合は、評価の対象にならない。</p> <p>実習室を使用しての授業では、指定された身支度が整っていないと授業に出席できない。</p> <p>身だしなみ（髪型、化粧、白衣）の自己チェックを強化する。</p>															

科目名：基礎看護学方法論Ⅸ（臨床看護総論）	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者：	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b> 「臨床看護総論」は看護が提供される場で看護の対象となる人々と実際に関りながら看護実践を行う（臨床看護）のための全体を総括した科目である。既習科目の基礎的な知識や技術をどのように統合しながら自分の看護実践として具現化していくのかその学習の手掛かりとなる。基礎看護学や各看護学の概論を終了し、看護の対象や、看護実践に共通する基本技術や生活援助技術を学習してきた。健康状態の経過や症状、治療・処置に応じた看護を実践するためには、日々の状態を正しく捉え、必要な看護を導き出す能力が必要となる。この科目は、臨床看護において看護の対象を理解するための基盤を学び、対象者の症状や治療・検査の知識とともに「アセスメント・判断・援助」という基本的な思考過程に沿って必要な判断ができる能力を養う。事例やシミュレーション教材を活用し、状態を判断することを繰り返し、その時その場面の判断力の強化や対象にあった援助を見出す重要性を学ぶ。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルから捉えた対象者と健康上のニーズについて理解する。</li> <li>2. 健康状態の経過に基づく看護を理解する。</li> <li>3. 症状のある患者の看護がわかる。</li> <li>4. 治療処置を受ける患者の看護がわかる。健康障害をもつ対象の援助について、既習の知識を活用し看護技術を適用する方法がわかる。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. ライフサイクルからみた各期（小児、成人、高齢者、親になる人）の特徴と健康上のニーズと看護</li> <li>3. 4. 各経過別（急性期・慢性期・リハビリテーション・終末期）の特徴と健康上のニーズと看護</li> <li>5. 6 主要症状のある患者の看護 疼痛／呼吸障害／循環障害/廃用症候群</li> <li>7. 8 治療処置を受ける患者の看護 創傷処置と看護</li> <li>9. 10. 11. 12. 13. 14. 疾患、症状、治療処置を関連づけて概要を把握。1日の行動計画立案</li> <li>15. 試験</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 60% レポート 40%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b>  系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論  [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 eテキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p>	
履修上の注意事項		